主日の福音 2025/5/18(No.1356)

復活節第 5 主日（ヨハネ 13:31-33a,34-35）

新しい掟は人を新しい生き方に導く

皆さん、ミサに来たときにあまり見かけない人がいたらどんな反応をするでしょうか。皆さんのほとんどが日本人ですから、すぐにお近づきになるのは無理でしょう。今週イエスは、「互いに愛し合いなさい」と仰せになります。

今週の福音の「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい」（13・34）を黙想するために、一つの箇所を参考にしたいと思います。ヨハネ 15 章 13 節です。「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」

私が一緒に読み比べたいヨハネ 15 章 13 節は、「どのように愛するのですか」と聞かれたときの答えです。ただ、「自分の命を捨てる」は、説明が必要でしょう。もちろん、「ゴミ箱に捨てる」という意味ではありません。話の中でどのように使われているかを考える必要があります。

ここには、「自分の命を投げ出す、差し出す」ということは含まれていると思います。自分の命を投げ出すと、どうなるのでしょうか。投げ出された命は、「条件を付けない」で用いられることになります。

信頼している友に、「わたしの命をあげるから、このような使い方をしてほしい」と条件を付けるのではなく、「わたしの命、わたしにとって何よりも大切なものを、条件を付けずに差し出します。」そういう意味で捉えましょう。

「互いに愛し合いなさい。」互いに、自分がいちばん大切と思っているものを差し出します。その際、条件を付けずに与えるのです。「わたしがこれだけ愛したのだから、同じだけ愛してほしい」ということではありません。

「愛する」ことには、時間や都合やまごころを与えること、さらにはゆるすことも含まれるでしょう。それらを、使い方に条件を付けるのではなく、期限を設けてゆるすのでもなく、無条件に与え合う。これは通常考えられる愛の形ではないわけです。イエスご自身が模範を示され、イエスだけが与えることのできる掟、つまり、「新しい掟」なのです。

互いに愛し合うという「新しい掟」を学んだ人は、従来の掟を超えた生き方が必要です。新しい生き方が必要です。従来の生き方は、何かを期待して与えたりゆるしたりしていました。しかし、イエスが示された「新しい掟」を学んだのですから、家庭の中で、社会の中で、条件を付けずに愛し合うことが求められています。

実はすでに、学ぶ前から新しい掟を生きている人もいます。子どもを育てる親の中には、人に言えない苦しみを抱えている人もいます。配偶者の一方は子どもを無条件に愛していても、もう一方は子どもが親の期待に沿わず、結果が出ないのはお前のせいだと責められている場合があります。

それでも、無条件で配偶者にも子どもにも愛を与えて生きている人

もいます。「新しい掟に沿って生きていること」を人に教えられたわけでもなく、知らずに新しい掟を立派に生きている人もいるはずです。必ず、その人は報われます。

　イエスが示された「新しい掟」を世に証しできるのは、今日ここに集まった皆さんです。今日学んだからです。皆さんを通して、すべての人が「新しい掟」を知ることができますように。皆さんを通してより多くの人が新しい掟に触れて、神の民の一員に加えられますように。

復活節第 6 主日(ヨハネ 14:23-29)